

概要版

# あいち健康の森健康科学総合センター (あいち健康プラザ)の見直し基本構想

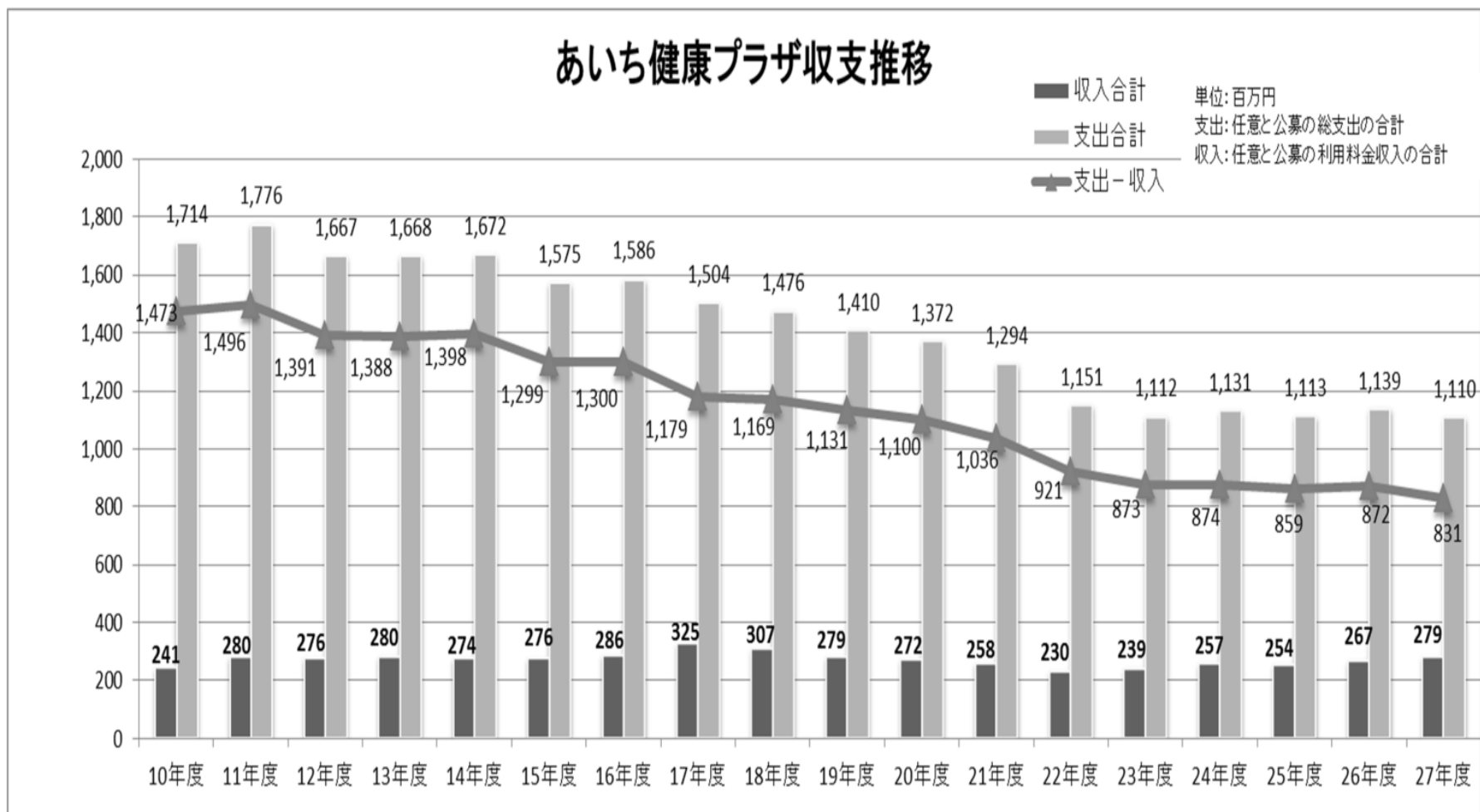
# あいち健康プラザの概要

開館	平成9年11月一部オープン、平成10年6月全館オープン
施設所在地	愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1番地の1
敷地面積	52,314.97㎡ (すべて県有地、あいち健康の森公園(都市公園)全体の1/10程度)
建築面積	16,309.94㎡
建築延床面積	40,300.51㎡ 健康開発館 11,702㎡ 健康科学館 8,058㎡ 健康情報館 9,252㎡ 健康宿泊館 9,276㎡ アトリウム 2,012㎡
建物の構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上11階建て
駐車場	174台駐車可能(別に健康の森公園の駐車場3箇所805台あり)

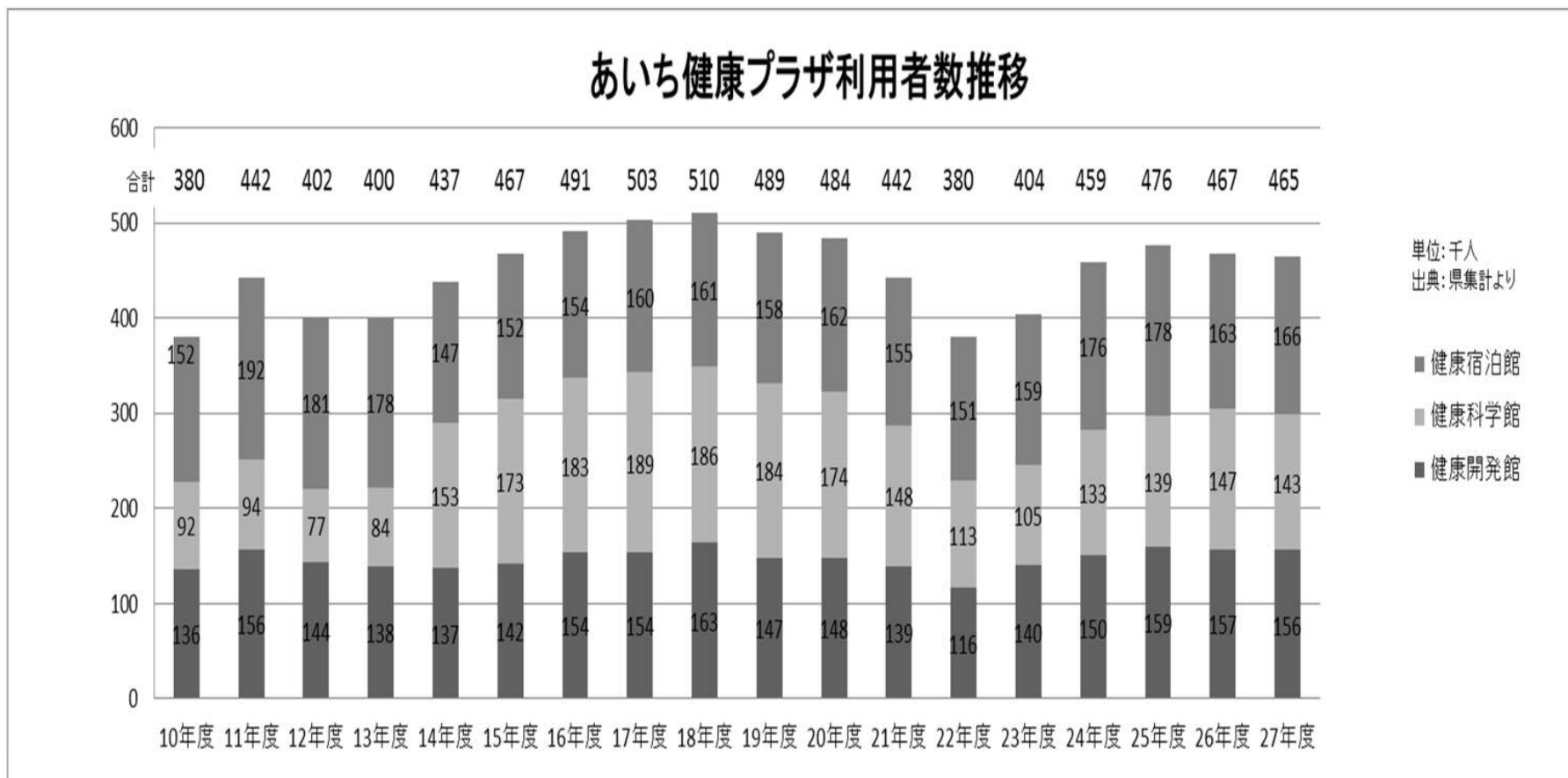
## ○館別の機能等

施設の内容		主な機能
健康開発館	診療所エリア、アスレチックルーム、温水プール、レクリエーションジム、フィットネスルーム、リラクゼーションルーム、クッキングルーム など	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康開発実践機能</li> <li>指導者養成機能</li> <li>研究開発機能</li> <li>交流・支援機能</li> </ul>
健康科学館	常設展示室、ヘルスサイエンスシアター、展示ギャラリー など	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及啓発機能</li> </ul>
健康情報館	情報ライブラリー など	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合情報機能</li> </ul>
健康宿泊館	宿泊客室、会議室、レストラン、もりの湯 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊機能</li> <li>コンベンション機能</li> </ul>

## ○収支の推移



## ○利用者の推移



(注)利用者数に影響を及ぼしたと考えられる事項

- ・平成14年度～ 特別展示を年4回開催
- ・平成14～18年度 万博のため、児童総合センター一時閉館による「あそび・たんと・テント」開始
- ・平成17年度 万博開催
- ・平成21年度 新型インフルエンザ流行、公園遊具一部使用不能
- ・平成22年度 プール、レクジム、ジョギングトラック、科学館展示室Ⅲ一時閉鎖(天井工事等)
- ・平成23年度 東日本大震災による科学館利用減

# あいち健康プラザの課題 ①行政コスト

## 基幹設備等の老朽化による運営経費の増大

○今後施設を維持していくこととした場合に見込まれる費用(粗い試算)

運営費	年間約9億円(利用料収入約2億円を差し引き済の指定管理料)	
維持更新費	約29億円	
	【内訳】熱源及び中央監視装置更新工事(設計費を含む)	約6.6億円
	外壁等改修工事	約3.9億円
	空調制御機器等更新工事	約2.9億円
	昇降機設備工事	約9.0億円
	プール等設備更新	約1.0億円
	その他、温泉施設、プラザホール等設備修繕工事等	約5.6億円

※維持更新費は、現時点で明らかに改修が必要な工事の試算

○館別の課題

健康開発館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールの老朽化(今後の更新費用の粗い試算:約1億円)</li> <li>・プールの利用者の減(開設当初ピーク時から約40%の減)</li> <li>・利用率が低い(クッキングルーム、リラクゼーションルーム)</li> </ul>
健康情報館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率が低い(情報ライブラリー)</li> </ul>
健康科学館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示物の老朽化、陳腐化</li> </ul>
健康宿泊館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率が低い(平成27年度実績 46.4%)</li> <li>・温泉施設の老朽化(今後の更新費用の粗い試算:約5千万円)</li> </ul>
アトリウム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費の負担(光熱水費全体の約17%を占める)</li> </ul>

# あいち健康プラザの課題 ②社会情勢の変化

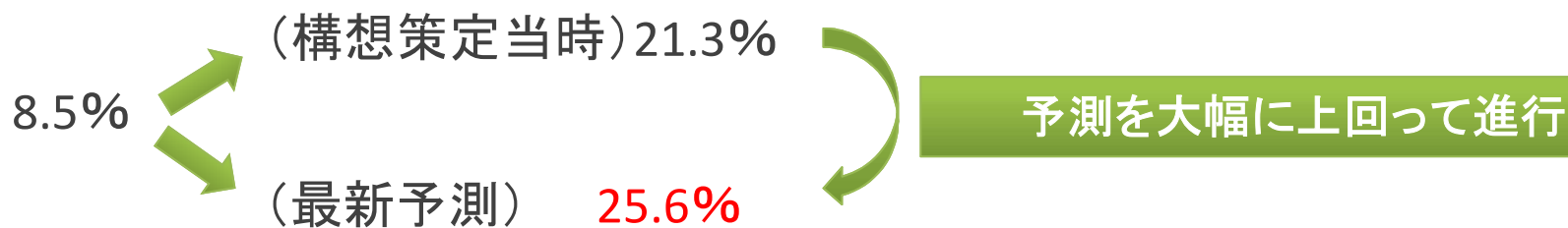
## 超高齢社会の到来による新たな課題

### ○急速な高齢化の進行

【高齢化率(65歳以上人口の割合)の予測(愛知県)】

昭和60年

平成32年



出典:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

### ○認知症高齢者の急増

【認知症高齢者の推計(愛知県)】

平成24年	平成27年	平成32年	平成37年
23.7万人	28.6万人	34.3万人	40.0万人

(注)厚生労働省老健局公表(平成27年1月27日)「日本における認知症高齢者人口の将来推計に関する研究」による速報値(有病率は65歳以上人口に対する割合)をもとに、「愛知県の将来推計人口(65歳以上)」に認知症有病率(糖尿病有病率の増加により上昇すると仮定した場合)を乗じて算出

認知症対策は全県共通の喫緊の課題

# 見直しの方向性 ①基本的な考え方

- ◆ 急速に高齢化が進行する中、認知症対策は全県共通の喫緊の課題であり、プラザにおいてもプラザの強みを活かしながら認知症対策に取り組んでいく。
- ◆ 認知症予防としても必要な生活習慣病予防や今後急増する後期高齢者のフレイル対策など認知症対策と関わりの深い機能の展開も図っていく。
- ◆ 包括外部監査の指摘も踏まえ、行政コストを削減するため省エネ対策を進めるとともに、今後プラザが担う機能に見合った効率的な施設となるよう減築等の検討を進める。
- ◆ あいち健康の森とその周辺地域(大府市・東浦町)を対象とした、認知症に理解の深いまちづくり(オレンジタウン構想)とも連携を図っていく。

(参考)

オレンジタウン構想調査

保健・医療・福祉の専門機関が集積するあいち健康の森とその周辺地域を対象として、認知症に理解の深いまちづくりのモデル(オレンジタウン構想)とするための調査

○構想の内容

- ・ 認知症対策の現状と課題
- ・ 構想のコンセプト・将来像
- ・ 取組主体(地元市町、健康の森内の施設等)に期待される役割・機能
- ・ 取組主体が実施すべき取組や連携の方策
- ・ 構想実現に向けたスケジュール

○調査期間 平成29年2月から平成29年9月まで

## 見直しの方向性 ②機能の見直し

- ◆ プラザがこれまで培ってきた生活習慣病予防のノウハウや市町村、保険者とのネットワークを活かし、認知症予防を中心とした取組を進めていく。  
まずは国立長寿医療研究センターとの連携ラボを開設のうえ、「認知症予防教室の開催」、「認知症予防リーダーの育成」に取り組み、その実施状況や施設整備の状況を勘案しながら他の取組を展開していく。
- ◆ 生活習慣病予防について、現行の健康度評価、実践指導、指導者養成、研究開発、健康教育等の事業を継続して実施するが、本県の健康づくり推進のための総合計画である「健康日本21あいち新計画(平成25年度～34年度)」の中間評価の結果(平成29年度実施)も参考にしながら、事業内容や事業規模について見直しを行う。

### 【当初の取組】

- 長寿研との連携ラボの開設  
プラザの生活習慣病予防のノウハウと長寿研の認知症の専門的知見、それぞれの強みを活かした連携ラボの開設を検討する。
- 認知症予防教室の開催  
認知症に関する正しい知識や認知症の人への理解などの講義と愛知県版コグニサイズの実践(長寿研との協定事業により平成29年度に完成する予定)を行う予防教室を開催する。
- 認知症予防リーダーの育成  
認知症について正しい知識を持ち、認知症予防の実践活動もできる人材を育成する。養成した人材は、認知症予防教室や高齢者サロンで実践を積み、地域での自主活動につなげる。

### 【その後の想定される取組】

- 認知症に対応した健康度評価プログラムの実施
- 高齢者サロンの開設
- 認知症予防のヘルスツーリズムの展開
- 介護ロボット・福祉用具等の展示・実演
- 長寿研の研究成果の展示
- フレイルに対応した健康度評価プログラムの実施



## 見直しの方向性 ③行政コストの縮減

- ◆ 見直した機能に見合った効率的な施設とし、コスト縮減を図るため、必要性、広域的役割、利用状況、今後の人件費や設備投資の負担等から総合的に判断し、以下を廃止する。
- ◆ 廃止箇所のうち、プール、科学館については、減築を検討する。また、光熱水費の負担が大きいアトリウムについても、合わせて減築を検討する。その他の廃止箇所については、機能の見直しの中で、新たな活用を図っていく。
- ◆ 健康開発館及び健康宿泊館は、コスト縮減に向けて、経費を精査するとともに、採算性を向上させる。

### 【廃止箇所】

廃止箇所		廃止の理由
健康開発館	プール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症予防等の実施において、必須の施設ではない。</li> <li>・利用者が減少している。</li> <li>・今後の費用負担が大きい。</li> </ul>
	リラクゼーションルーム クッキングルーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症予防等の実施において、必須の施設ではない。</li> <li>・利用率が低いが人員配置が必要であり採算性が低い。</li> </ul>
健康情報館	情報ライブラリー	
健康科学館	常設展示施設、サイエンスシアター等全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症予防等の実施において、必須の施設ではない。</li> <li>・利用者の大幅な減少はないが、展示物が老朽化、陳腐化しており、施設の維持継続には、多額の設備投資が必要である。</li> </ul>

### 【減築検討箇所】

プール、科学館、アトリウム(減築の概々算費用:約17億円)

※減築については、平成28年度に実施した専門業者による基礎調査において、建築技術的には可能であるという結果が得られているが、技術的課題が指摘されている。上記概々算費用にはその対策等のための設備の切り直し費用等は含まれていないため、平成29年度に詳細な調査を行い、減築の全体費用と減築による運営費縮減額を把握しうえで、最終的に減築箇所を判断する。

# 見直しのスケジュール

現時点で想定される見直しスケジュールは以下のとおりであるが、今後の調査、検討状況等により変更があり得る。

